

三九六六番

うぐひすの 鳴き散らすらむ 春の花 いつしか  
君と 手折りかざさむ

(同じ二十年二月二十九日、守大伴宿禰家持の歌二首)

三九六七番

山峡に 咲ける桜を ただ一目 君に見せてば  
何をか思はむ

三九六八番

うぐひすの 来鳴く山吹 うたがたも 君が手触  
れず 花散らめやも